

企画委員会から

お願い……会議とは

2018.04.04

No.03

校長 渡邊 幸二

昨日の午前中、教頭先生と教務のJ先生、そして3指導部の部長さん方と企画委員会を行いました。とても有意義な話し合いでした。

私はまず先生方に、前日話した学校経営方針についての感想を求めました。どの先生も、真摯に受け止めてくださっていることが分かり、学校を運営している身としてとてもうれしく、心強く思いました。

しかし、新しい校長に気を使って良いことだけ（今どきに言うなら「忖度」して）お話ししていることもあるかと思いましたので、「気になっていること、難しいと思うこと、ん〜と感じること」もお聞きしました。

K. R先生

先生方はやる気を持って取り組んでいくと思いますが、いろんな**企画が乱立して、どれも中途半端になる**のではないかと不安です。たとえば、この企画委員会で調整をするということも必要になるのではないのでしょうか。

さすがK先生です。全くそう思います。何よりうれしいのは、K先生が「先生方はやる気を持って取り組んでいく」とお考えになっていることです。チーム浜田の先生方の気質なのでしょう。大変ありがたいことです。アイデアの泉がないところに花は咲きませんので、若い人も、初めての方も、ベテランも、オレなんかと思っている人も、まずは**自ら考え、自分から提案**(誰かにしゃべるということも)してください。

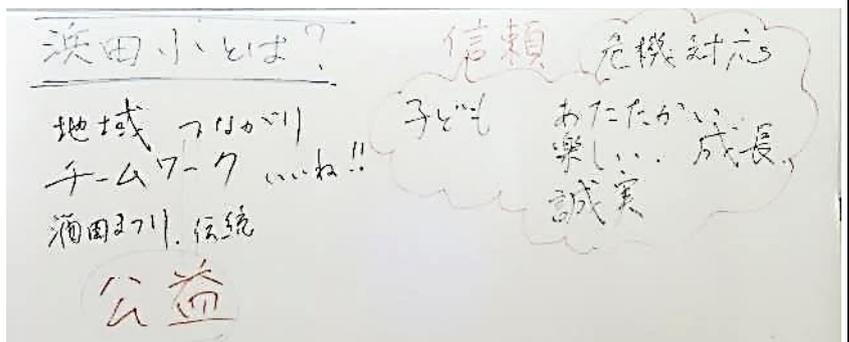
K先生の指摘は、子どもたちのレベルでもよく起こり、児童会の各委員会がいろんな集会を企画した結果、人の取り合いになり、何が何だか分からなくなるということがよくあります。企画委員会でもんでいきましょう。

T. N先生

昨年度末、いったん旗を降ろそうということになった「公益」にどう取り組めばいいのか……。

N先生からは、公益・貢献ということに反対というのではなく、逆に大いに理解を示していただいていることが感じられ、方針を示したものとしてとてもうれしかったです。ただ、せっかく旗を降ろせたとしたのに、私が勝手にまた旗を揚げてしまったことは、大変申し訳ないことです。

おそらくこれからの実践を重ねながら、「浜田小の公益」を定義できるようにしてい



なければなりません。その核となるのは、経営方針でも説明しましたように、さまざまな教育活動・授業が、「貢献」というゴールイメージをもって組み立てられていることだと考えます。そういう日々の授業改善、教育課程改善が「浜田小の公益」になっていきます。「公益とは！」と大上段に構えることなく、私たちの教育のベースに流れるような「公益」を進めていきましょう。

S. J先生

学校経営方針の中核が「授業・学力」というように感じました。ただ、先生方はおそらくそれが「こういう授業だ」というイメージがないと思います。いろんな研修に行ってもイメージをつかんできたいと思います。学習指導部として、そういう授業像を提案すべきでしょうか。

これまたうれしいご指摘でした。J先生のおっしゃるように探究型学習に授業の「型」はありません。それは文科省でも言っています。では、どういう授業が「探究型の授業」なのかというと、その答えは先生方一人一人が創り上げていくものだと思います。先日の説明で、何となくイメージはつかめたかもしれませんが、具体的に日々の授業におおしたときにどんな授業になるかは、それぞれの先生方のスタイルで違った形になってくると思われます。経営方針で示した通り

学校課題を解決していく、あるいは学校教育目標を達成していく答えを持っているのはみなさん自身です。誰かの命に従って忠実に動くことだけでは、この困難な状況を打破することはできません。みなさんが持っているスタイルを大事にしながら、その思いを積極的に、主体的に課題解決に向け意を注ぐことが何よりも大切になります。

なのです。

われわれは常に学んでいかなければなりません。教育基本法第9条にも「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とあるから！というわけではなく、おそらく先生方ご自身がそう感じているはずですよ。これまた理想に向けて楽しく、ワイワイやるチームであって欲しいと願っています。研修にもどんどん出かけていきましょう(2人組み案、賛成です)。

職員会議とは…

「昭和の授業」ではないのですが、これまでの職員会議は、「協議」よりも「連絡・報告」が主となり、会議で発言する人はあまりいないというのが現状ではなかったでしょうか。本来の「会議」というスタイルからは程遠い、こんなにブレインが集まっているのにそれを機能させないなんてもったいない話だと思いませんか。

できれば職員会議もしっかりと対話し、より良いものを創る話し合いにしたいと思います。そのためのシステムとしては「ホワイトボードミーティング」「課題別の小グループの協議」「KJ法による話し合い」などが考えられます。これも少しずつ、やりながら改善していきたいと思っています。